

すくわくプログラム報告書 2025年度

幼稚園・学校番号：

施設名 スマイルクラブナーサリー木場

活動のテーマ

- ▶ クラス担任3人と園長で話し合い、今の子ども達の姿を踏まえて、どのようなことを感じてほしいか、経験してほしいかを導き出した。また活動を展開していく中での主軸を決めていった。
- ▶ 植物の命を大事にする心を育ててほしい。
- ▶ SDGsの17の目標を少しでも感じられる活動を展開する。

テーマの設定理由

- ▶ 生き物や植物に対するの興味関心が高く、それらを通して命の大切さを知ってほしいというねらいと、食への関心を高め、残食を減らすきっかけに繋がったから。
- ▶ 日々の保育を通して、SDGsの観点を少しでも子どもたちに感じ取ってほしいという気持ちと、身近な素材、保育の中でも様々なことがSDGsの目標に繋がっていることを保育者自身も感じ、活動の展開の仕方やアプローチの仕方の幅を広げていきたかったから。

活動スケジュール

- ▶ 10月上旬～ 日々の保育の中でさつまいも掘りが題材となった絵本の読み聞かせの機会を重ねる。また事前にどのようにしてさつまいもはできているのか、どのようにして獲るのか子どもたちと帰りの会などで話をして期待感や興味関心を高める。
- ▶ 10月28日 さつまいも掘り遠足。バスに乗って、水海道あすなろの里にてさつまいも掘り体験をする。慣れない軍手をはめて、保育者や係の方に手伝ってもらいながら実際にさつまいもを掘る。獲ったさつまいもは、それぞれ家に持って帰る。
- ▶ 11月4日 獲ってきたさつまいもを使った食育：スイートポテト作りをする。
- ▶ 2月20日 年長児のみでさつまいも、じゃがいも、さといもを使った食育を行う。八百屋さんで食材を買ってきて、一人ひとり包丁で食材を切り、味比べをする。

探究活動の実践

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ▶ 教材：絵本『ほくほく おいもまつり』
- ▶ さつまいも掘り：軍手、長靴
- ▶ 食育：さつまいも、バター、などの食材、ボウルやお玉、スプーンなどの調理器具、エプロン、三角巾、マスク、エンボス手袋

- ▶ 活動内容：さつまいも掘り
- ▶ 食育①(スイートポテト作り) ①蒸したさつまいもを潰す②調味料を入れてかき混ぜる③一人1つずつ好きな形に成形する
- ▶ 食育②(食材の違いによる気づき) ①さつまいも、じゃがいも、さといもを包丁で切る。②切った食材を塩を少し振って食べる。

探究活動の実践

・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等

- ▶ 園で植物を育て観察するというような活動の機会があまり持てないため、何かを獲るという経験もなかなか機会がない。そのためさつまいも掘りを行ったことがある子もまばらで、園としてもさつまいも掘りの活動は初めての活動となった。
- ▶ 子ども達は普段の生活の中で、さつまいもが土の中で育つことは知っていたが、どのように獲るのか尋ねると「引っ張って取る」というように、絵本などの世界でよく描かれている場面を思い出して話している様子で、土を掘って掘り返してから引っ張らなくては、上手く抜けないことを知らないようだった。
- ▶ 遠足当日、使い慣れていない軍手をはめて、実際にさつまいも掘りに挑戦。まずは土を掘り返すよう説明を受けて、掘ってみるが、初めての体験に慎重になっている子が多かった。周りの友達の様子を伺いながら掘ったり、土を掘り返すことに、どのくらいの力加減で、どのくらいの深さを掘れば良いのか分からず、戸惑っているようにも見えた。(写真①参照) 保育者や係の方に協力してもらいながら掘り返し、少しずつさつまいもが見えてくると、「見て！さつまいも見えた！」と元気に声を上げたり、引っ張り抜くことが出来ると、まじまじとさつまいもを見つめる子もいた。さつまいも掘りの大変さやさつまいもは一つの苗に複数のさつまいもが連なってできていることを実感出来たのではないかと思います。(写真②,③参照)

写真①



写真②



写真③



- ▶ 食育活動①では、蒸したさつまいもを潰す工程に苦戦した。保育士も想像以上に、さつまいもを潰す工程の難しさを実感しながら、子ども達に潰しやすさの変化はあったか、調味料を加えて匂いは変わったかなど問いかけながら活動を進めた。最初は固かったり、そもそも上手く調理器具を使いこなせない様子が多かったが、自分たちで考え協力したり、声をかけ合ったりしながら活動していた。

写真④



写真⑤



- ▶ 食育②では、まず今までの活動を振り返った。活動からかなりの時間が空いていたので、以前の活動のことを呼び起こすために同じ食材を使いつつ、新たに包丁を使った活動を行った。包丁を使ったことのある子、ない子がいて、それぞれ自分たちで八百屋さんに行ったさつまいもとじゃがいも、さといもを包丁で切ってから塩をかけて食べ比べをした。
- ▶ 包丁で食材を切った感触を尋ねると、それぞれの違いはあるのか、どんな感覚を感じたのか思い思いに表現していた。
- ▶ 味比べでも、まず塩を付けずに食べた時と塩をかけた時、どの味が自分好みか話した。塩をかけない時とかけた時では違う食材が好きだと話す子もいれば、どちらの場合でも同じ食材を選ぶ子もいたが、同じいも類でも味や感触が違うことには十分発見できた活動となったようだった。

写真⑥



写真⑦



振り返り

- ▶ 実際に自分達が獲ってきた食材を使った食育を行えたことは、普段の食育と比べるとより記憶に残る経験になったのではないかと思った。また持ち帰った食材を家庭で、何の料理にして食べたのか嬉しそうに話す子どもも多く、関心の高さが伺えた。
- ▶ さつまいも掘りの遠足は、毎年行っている行事ではなく、今回初めての取り組みの活動となったので、保育士間でも遠足はひとつ大きな主活動となった。その後行ったまた別の食育：マッシュポテト作りで、同じく食材を潰す工程があったので、スイートポテト作り時とは、どのような違いがあるか尋ねてみたりして、さつまいも掘り遠足があったからこそその会話が広げられたと思う。日々の給食の何気ないおかずの食材だったさつまいもが、この活動を通して、子ども達にとっては少し特別で興味が深まった食材になったことは明らかだった。
- ▶ 最後に年長児だけで行った食育②では、何気なく食べている食材を改めてじっくり見て比べてみると、新たな違いがあることを一緒に実感することが出来た。味の違いだけでなく、大きさや質感、切った時の感触など普段なかなか比べないことも経験できて子ども達の経験の幅が広がった活動に繋がったのではないかと感じた。